

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2795700059		
法人名	医療法人 協仁会		
事業所名	グループホーム第3なごやか		
所在地	大阪府四條畷市南野2丁目1番24号		
自己評価作成日	平成 30年 8月 15日	評価結果市町村受理日	平成 30年 10月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiryoSyosyoCd=2795700059-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 9月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気候の良い時期はスタッフ付き添いのもと、入居者ほぼ全員が毎日15分から30分程度散歩にでかけ、気分転換と下肢筋力の維持に努めている。また散歩することで、近隣住民に挨拶をしたり、会話を交わすきっかけができ、地域密着型の役割を少しずつではあるが果たしている。また、医療との連携を強化しており、現在入居中の18名のうち、17名が在宅医療の往診を受けている。24時間体制でいつでも連絡を取り、臨時で診ていただく、または指示を仰ぐことで、長期安定した生活を送っていただくことが可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体として開設した2ユニットのグループホームです。駅に近く、交通の便の良い静かな住宅街の一角にあります。ホーム建物の横は稲穂の緑の風景が広がっています。気候の良い時には、利用者・職員は散歩やピクニックに出かけたり、職員の運転で喫茶店にスイーツを食べに行く等しています。毎月の地域の老人会への参加、ドッグセラピーによる動物たちとのふれあい、絵を描いたりオブジェを創作する臨床美術ボランティアをとおして地域住民との交流が進んでいます。母体法人による24時間医療体制の整備は利用者・家族・職員の安心にもつながっています。利用者は、花・野菜を植えて水やりをしたり、食事の準備、野菜の皮むき、洗濯干し・たたむ等できることは互いに役割を持って生活をしています。副主任は「安心して生活できるよう常に思い、利用者に寄り添った介護」を目指して職員教育をしています。管理者は、開設3年目に入り職員の育成が重点項目と掲げており、今後に期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を理解し、思いやりのあるケアの提供にスタッフ一同努めている。個々の年間目標を検討し、具体化させることにより、意識付けに努める。	管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念の下に「1,人権の尊重及び身体拘束を排除し、安全と生命を守る 1,より質の高いケアとサービスの提供 1,家庭や地域に開かれた施設」をホーム理念として、玄関入口やキッチン内に掲示しています。管理者は理念達成に向け、職員個々の年間目標を検討しており、職員間で共有してサービスの実践に繋がるよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な範囲内で自治会への行事(夏祭りや一か月に一度の老人会など)への参加を通じてつながりをもつようにしている。	ホームは、地域の一員として、自治会に加入しています。毎月開催の地域の老人会「つくし会」には利用者・職員が参加をしています。食事やゲームをする等地域との交流や信頼関係が深まる場となっています。また、地域のボランティアの協力もあり、ドッグセラピーや、絵を描いたりオブジェを作るといった創作活動をとおして認知症の予防につながる臨床美術等を取り入れ、利用者が地域とつながり、暮らしがより豊かになるよう支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	気候が良い時期は毎日散歩に出かけ、入居者、スタッフが近隣住民から声をかけてもらったり会話を交わしたりし、施設の理解を深めてもらうよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、入居者、家族、地域包括支援センター等を交えて意見交換をいただき、入居者・家族の意見や要望を検討し、出来る限り応えられるようサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、開催規程に沿って2ヶ月に1回、年6回定期的に開催しています。参加者は市の高齢介護室職員、地域包括支援センター職員、地域の民生委員、家族の代表、利用者、薬局の薬剤師、法人本部職員等多彩です。ホームから利用者の支援状況、課題や困りごとを説明し、参加者から意見や要望を聞いて、ホームの運営やサービスの向上に活かしています。会議での提言から利用者が毎月の老人会等地域の行事に参加ができるようになりました。管理者は、「運営推進会議は参加者からいろいろな提言や情報提供があり、また、地域の理解と支援を得ることができる大切な機会」ととらえています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の高齢介護室の職員に参加していただき、情報を共有している。	管理者は、市の職員が運営推進会議参加の折にホームの状況や課題、困りごと等を伝え相談したり、意見交換をして協力関係を築いています。毎月、看取り等介護に関する課題や介護保険制度について市主催の勉強会があり、管理者が参加しています。事故報告は、くすのき広域連合四條畷支所に報告しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、定期的な会議を行い、抑制や拘束がないか周知している。また運営推進会議のなかでも身体拘束について議題を取り上げたりもしている。 季節の良い時期になると毎日近隣へ散歩にでかけ気分転換をはかっている。	ホームの基本理念の第一項に「人権の尊重及び身体拘束を排除し、安全と生命を守る」を掲げて、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。平成30年4月に身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3ヶ月毎に開催しています。研修会も年2回の開催の計画です。初回は抑制について研修し、言葉の抑制(スピーチロック)については具体的な言葉使いを例に勉強しました。指針やマニュアルも整備しています。ただ、利用者が1人で外出し保護された経験から安全面を考え、現在、玄関、各ユニットの入口は施錠している状況です。管理者は、職員と協力し、毎日の散歩等で利用者の気分転換を図るなど、少しでも自由に過ごせるよう支援していますが、今後は家族の理解も得ながら、施錠しないケアを目指したい意向です。	鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていくことが求められます。 事業所の自己評価でも、課題の一つとして、鍵をかけない支援に取り組むことを挙げています。今後の取り組みの成果が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	SM 委員会、身体拘束廃止委員があり、虐待につながる行為がないか、抑制していないかの意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で行われる勉強会に参加する機会があり、職員も出来る限り参加をし、入居者に支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。面会の頻度が少ない家族に関しては電話にて意見を聞いたり、疑問点があれば説明をして理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会された際に家族へのコミュニケーションを積極的にとるよう心がけている。意見箱を設置し、なにかあれば定例の会議にて検討をし、反映させるようにしている。この意見は運営会議内でも議題として出している。	家族は運営推進会議に参加し、意見や要望を出しています。また、職員は面会時において細やかにホームや利用者の状況報告をするなどして家族が意見を表出しやすいよう努めています。2ヶ月毎に発行の「グループホーム第3なごやか新聞フランチエル」は、利用者の笑顔の生活風景・行事やホームからの一言を載せて家族に送付しています。また、家族が気づき・苦情・意見を記載できるよう玄関入口に意見箱を設置しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日ごろ会話をする中で意見を出来る限り聞き、意見交換を行うようにしている。	管理者は、月に1回の全体会議を開催し、職員が意見や要望を出せるようにしています。会議では、各委員【感染・環境、園芸、行事、SM改善(セーフティマネジメント)、ケアプラン等】からの報告・連絡事項・その他職員異動等について意見を出し合っています。職員間には自由に意見を表出できる雰囲気があります。管理者は、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務になるように心がけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	互助会や共済会を通して法人が福利厚生が手厚くなるようにしている。定期の昇給が基本的にあることと、その他、委員会や入居者の担当制を設け、責任と自覚を持って業務に取り組んでもらいモチベーションの維持を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例の会議内、または法人が行う勉強会を通して向学するようにしている。また、リーダー的立場のスタッフは実践者研修やリーダー研修を積極的に受けるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自治会のあつまり(つくし会)や施設部会などへの参加により、ネットワークを構築している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の希望を汲むことや、不安感を取り除けるよう、入居初期段階でなるべく本人とコミュニケーションをとり、その気付きをカルテ内に記入し、スタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を考えておられる家族には、じっくりと検討してもらえよう、また無理強いをしないように、見学を何度もしてもらい、施設の雰囲気や環境を確認してもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療の分野を必要としているケースが多々あり、医療との連携を密に取ること、本人・家族が安心して生活できるよう在宅往診の活用も検討する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の自己決定により、生きがいや自身の役割を持てるように環境づくり、例えば皿洗いや洗濯物干し、庭の水遣りなどを行うよう声掛けをする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2 ヶ月に一度入居者のモニタリングを行い、その内容を家族に送付して確認を頂くことで、都合などでなかなか面会に来られない家族にも安心してもらえるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の良い時は散歩にでかけ、近隣の住民から挨拶してもらったり、施設に入居する前によく歩いた散歩コースをあるいたりしている。定例の自治会の老人会にも参加している。	利用者は、馴染みの理髪店や医療機関に家族や職員と出かけています。家族と元の家に出かけて外泊をしたり、入浴を楽しんだり、墓参りに出かける利用者もいます。友人・知人の訪問がある等、馴染みの人や場所との関係が途切れることがないよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちにならないよう、且つ無理強いしない程度に日中はフロアに出て来てもらい、皆で歌をうたったり、ゲームをして孤立を予防している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やお亡くなりになられた家族に対しても、本人や家族の体調など伺ったりもしている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活されるなかで、会話をする機会を積極的に設け、本人の思いを汲むように心がけている。意思疎通の困難な方に関しては、家族の意向を聞き取るようにしている。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い・意向を把握し、介護計画に活かしています。入居後は、担当職員が「評価表(モニタリング)」や「連絡ノート」に利用者・家族の思い・意向など把握した事を記載し、「介護記録」を毎日丁寧に記載することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。記録類は利用者と職員の会話の内容や表情が読み取れるような内容となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、または定期的なアセスメントにより、生活歴等を把握することでグループホームの生活にも活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体の状態に応じた生活をしてもらえるよう、スタッフ間で記録などを取り、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月に一回モニタリングを行い、本人の体調、近況報告を家族に伝えている。その報告の中で家族からの意見を吸い上げ、日々のサービスに反映させていけるよう介護計画に組み込んでいく。	介護計画は6ヶ月を原則として見直しをしています。「評価表(モニタリングチェック表)」「介護記録」を丁寧に記載することで利用者の思いや要望を汲み取っています。モニタリングは2ヶ月毎に行い、利用者一人ひとりに対して、担当職員が意見を記入しています。「モニタリングシート」を家族に送付し確認を得て、それに沿って計画作成担当者が介護計画に反映させています。状態に変化のあった時、統一したケアが必要な時には、家族や看護師の意見を求めて都度計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の記録は日々の状態を個人記録に記録し、併せて日勤、遅出、夜勤の担当職員に引き継ぎを行い、情報の共有を図る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば検討し、当施設のサービスの枠内で対応できない場合は法人でのサービスに繋げ、地域のボランティア等に協力をもらえるかを運営推進会議のなかで検討する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度自治会の老人会へ数名の入居者が参加するようにしている。ドッグセラピーや臨床美術などのボランティアを取り入れたり、地域の盆踊りなどに参加し、文化的な暮らしができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、もしくは家族に同意を得たうえで、内科は当病院の往診にて定期的な診察を受け、家族の都合などにより往診を受けない方に関しては定期的に外来受診をし、適切な医療を受ける。	利用者が、かかりつけの医師や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援しています。受診の際、通常は家族が同伴しますが、必要に応じて職員が通院介助を行っています。母体法人の医師による往診があり、夜間・緊急時の医療連携体制も整備しています。主治医との関係を密にし、指示を得ています。法人との連携で運営推進会議に地域の薬局の薬剤師が参加をしていることも利用者・職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が2人在籍しており、週に1回勤務している。入居者は健康チェックを受け、必要に応じて処置や助言をもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症により入院が困難な方もおられるため、環境の変化を最小限にとどめられるよう、病院と情報共有を行い、早期退院に努めるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ、担当医、看護師、家族、スタッフを交えて、家族には終末期はどういう治療をするのか、どういう生活をしていくのか、また施設で最期を迎えるのか、病院なのかを検討し、書類に記載してもらうことで確認できるようにしている。 法人でも終末期の対応の仕方などの勉強会が不定期で行われており、出席している	入居時に「入所時リスク説明書」に沿って説明を行い、利用者、家族の同意を得ています。重度化した場合、管理者は、家族、医師、看護師、職員などと話し合っ方針を決めています。家族の希望でできる限りの支援を行っています。看護師は1週間に1回健康チェックを行っています。職員は看取りの経験もあり、法人内部研修においてターミナルケアについての研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師・看護師などから情報をもらいながら、実践に備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会が定期的に行う勉強会等で、災害が起きた時の対応を勉強している。	年2回夜間想定を含む訓練を、消防署の協力を得て行っています。災害対策マニュアルを整備しています。非常階段等は電子キーでロックしていますが、非常時には事務所内で解除できる仕組みとなっています。災害用備蓄は、1階の倉庫に水や食料、ボンベ等保管しています。	災害はいつでも起こると想定し、非常持ち出し品の準備や災害用備蓄については、ホームが必要と考えるものを準備し、消費期限の管理のために備蓄一覧表などを作成して管理していくことが望まれます。
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重、理解しながら接するようにしている。個人ファイルなどの個人情報に関しては保管場所に常時施錠し管理を行っている。	法人理念にも利用者の人権の尊重を謳っており、利用者に寄り添った介護を大切にしています。排泄の介助時は利用者の羞恥心に配慮し、さりげない声かけを基本としています。利用者一人ひとりに合わせた丁寧な支援が実践されています。	管理者は、開設2年になり職員の人材育成に力を入れていく予定です。リーダー格の職員による「パーソンセンタードケア」や「人権」を中心とした研修を行う予定となっています。早期に取り組むことが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行し意思決定が困難な方でも、スタッフがその思いを汲むよう心掛け、ケアに取り組むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事の時間などは大まかにきまっているが、入居者の体調によって生活のペースを合わせて過ごしていただけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフの付き添いで、地域の理髪店に定期的に行き、身だしなみを整えている。散歩に行く前なども本人好みの服を選んでもらう時間を設けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器洗い、簡単な野菜の皮むきなどを行ってもらうことで、食事の楽しみをもってもらっている。	ホームでは朝、昼、夕3食とも各フロア内キッチンで職員が手作りしています。食材は業者から購入しています。食事の準備や後片付けは利用者も各々のできる範囲でお米とぎ、野菜の皮むき、お茶碗拭き等職員と共に行います。おやつ作りはホットプレートを利用したネギ焼き、ホットケーキ等を楽しんでいます。気候の良い時は近くの公園におやつや飲み物を持参して出かけています。また、中庭でバーベキューをしたり、職員の運転で地域の喫茶店に行つてスイーツを楽しんだりもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から、栄養バランスとカロリーが確保できている食材が毎日届けられるようになっている。メニューの偏りもほばない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で口腔ケアを行える方はスタッフが声掛けをして行ってもらい、介助が必要な方や義歯を預かる方はスタッフが対応して、口腔状態を把握している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンが把握できるよう排泄チェック表がある。基本は定時に声掛けをして排泄を促し、尿意、便意がない方に関しては定時でスタッフがトイレ誘導・介助を行っている。	排泄表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援に活かしています。原則トイレでの支援を心がけています。利用者の表情やしぐさから判断したり、意思表示の困難な利用者にはタイミングを見計らってさりげなく誘導するなどしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握しながら、適宜水分を補給、または牛乳を飲んでもらったり、軽い運動をして便秘予防を行っている。極度の便秘の方はその都度医師・看護師に相談して対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴対応であるが、便・尿汚染がみられた場合はその都度入浴して清潔を保つ。体調不良が続く方は清拭での対応をする。	入浴チェック表を作成して利用者の入浴状況を把握しています。入浴は原則週2回となっていますが、毎日の入浴希望があれば可能な限り対応しています。重度の利用者には職員二人で介助を行い、ゆっくりと湯船に浸かってもらえるよう支援し喜ばれています。体調が悪い時は清拭等も取り入れています。入浴を好まない利用者には時間をかけて、さりげなく声かけのタイミングを図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・湿度調整を行い、日々の体調によって休息をとってもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各入居者の個人ファイルにはさみ、内容が確認できるようにしている。内服薬が変更になった際は、引き継ぎを行い、定められた内服表に記載し、スタッフ間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲内で手伝いや、本人の趣味趣向に合わせて余暇活動を行ってもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	居室に閉じこもりがちにならないよう、なるべくフロアで過ごしてもらい、歌を歌ったり、ゲームをしたり、季節の良い時は散歩にでかけ、季節感を感じてもらおう。	利用者と職員は、気候が良い時は、毎日近所を散歩し、ホームの周りの公園や神社などに出かけています。中庭に季節の花や野菜を植えており、毎日水やりをしたり眺めたりしながら外気浴もしています。職員の運転で花見に出かけたり、近くの公園にピクニックに出かけて楽しんでいます。また、利用者の希望で演歌歌手の公演に職員と一緒に出かける等しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に家族が行い、3000円～5000円程度のお小遣いを預かり、本人の希望のもの(化粧品や消耗品など)があればスタッフと一緒に買い物に出かけたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば家族に電話をかけられたり、スタッフ付き添いでポストに投函したりもできるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閉ざされた空間にならないよう心がけ、日中はカーテンを適宜あけてもらい外の景色をみて季節感を感じてもらっている。 フロアの明かりは調節できるようになっており、適切な明るさを保つようになっている。	玄関を入るとバリアフリーの広い空間があり、建物や床は木目調になっており、穏やかな雰囲気です。リビング＆ダイニングや廊下も同様な感じです。適度に調整された明かりが心地良く、清掃も行き届いていて清潔感があります。リビングの窓からは田園が見え、季節を感じることができます。各ユニットには、利用者と職員で作り上げた、大きく綺麗な花火や金魚鉢の貼り絵が飾られ、楽しい感じです。リビング＆ダイニングの中央にテーブルと椅子が配置され、利用者は椅子に座り、テレビを見るなど思い思いに過ごしています。風呂は広く、清潔に整えられています。	リビング＆ダイニングで利用者がよりくつろげる工夫を検討されてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分、体調によっては居室で滞在したいということもあるので、無理強いせずその人のペースに合わせて過ごしてもらうようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する以前に使用していた馴染みの家具やベッドを持ちこんでもらうことも可能であり、より自宅に近い感覚で生活してもらうようにしている。	職員は利用者が今まで過ごしてきた環境に少しでも近く、居心地よく過ごせるように心がけ、家族の協力を得ながら居室を整えています。居室には、両開きの収納スペースとベッドが備え付けがありますが、使い慣れたベッドの持ち込みもできます。ホームで準備しているのは低床ベッドで、安全面にも配慮しています。各居室は、使い慣れた家具、テレビ、ラジオ、鏡台、家族の写真、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、それぞれにその人らしい工夫が感じられます。職員が描いてプレゼントした利用者の似顔絵が大切に飾られている部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレの場所がわかるよう大きな文字で看板を作りドアに貼る工夫をしている。		